

# 靖国 YASUKUNI 国

2007年釜山国際映画祭正式招待  
2008年ベルリン国際映画祭正式招待  
2008年サンダンス国際映画祭コンペ部門招待  
2008年香港国際映画祭 最優秀ドキュメンタリー賞受賞

## 誰も知らなかった、歴史がここにある。

「靖国神社」には、もう一つの日本の歴史がある。日本人にとって複雑な思いを抱かせる、アジアでの戦争の記憶をめぐる歴史だ。

日常は平穏そのものだが、毎年8月15日になると、そこは奇妙な祝祭的空間に変貌する。旧日本軍の軍服を着て天皇陛下万歳」と猛々しく叫ぶ人々、的外れな主張を述べ立て星条旗を掲げるアメリカ人、境内で催された追悼集會に抗議し参列者に袋叩きにされる若者、日本政府に勝手に合祀された魂を返せ」と迫る台湾や韓国の遺族たち。狂乱の様相を呈する靖国神社の10年にわたる記録映像から、アジアでの戦争の記憶が、観るものの胸を焦がすように多くを問いかけながら鮮やかに甦ってくる。

そして知られざる事実がある。靖国神社のご神体は刀であり、昭和8年から敗戦までの12年間、靖国神社の境内において100振りの日本刀が作られていたのだ。「靖国刀」の鑄造を黙々と再現してみせる現役最後の刀匠。その映像を象徴的に構成しながら、映画は「靖国刀」がもたらした意味を次第に明らか

にしていく。

「靖国」をテーマに10年にわたって取材を続けたのは、日本在住19年の中国人監督、李纒リ・イン)。これまで、国民党の將軍として孫文の参謀を務めた後日本に亡命した老人の晩年を描いた『2 H』(1999)や、東京四谷で中国伝統の味を守り続ける料理店を営む日本人夫婦を描いた『味』(2003)など、独自の視点と新しいスタイルをもつドキュメンタリー映画を監督し、日本と中国の関係にこだわり続けてきた。そしてついに、監督自身避けて通れなかったという「靖国問題」をテーマに、近年稀に見る傑作ドキュメンタリー映画を作り上げた。極めてセンシティブなテーマを扱っているにもかかわらず、前作と変わらぬその透徹した目線と人間に対する深い愛情が窺える。偏狭なイデオロギーにとらわれることのない、まったく新しい視点での「靖国」の記録。

日本・中国・韓国の3カ国の協力により、真のアジア友好を目指す合作映画として製作された本作は、海外の歴史ある映画祭に連続して招待され、すでに大きな反響を呼んでいる。日本人がこれまで見過ごしてきた歴史に、一人の中国人監督が柔らかな感性のまなざしを向けた。映画「靖国 YASUKUNI」は、いまこそ「靖国神社」と冷静に向き合わなければならないことを、強く訴えかける。アジアの平和と真の友好のためには何が必要なのか、この映画からはアジアの未来が見えてくる。

## 「憲法ひろば・杉並」の成り立ちと1年間の取り組み

憲法を学び、緩やかにつながりあう  
「憲法ひろば・杉並」に参加しませんか。

杉並区内に点在する、さまざまな市民団体がつながりあって、197年に杉並憲法集會連絡会は立ち上がりました。

その3年間に及ぶ活動は

杉並のさまざまな市民運動のベースをつくり、歴史的な役割を果たしてきました。

私たちはそれを引き継ぐ形で2007年10月に

「憲法ひろば・杉並」をスタートさせました。

憲法のひとつひとつの条文を、一人一人が日常の中に取り込んで、

“ボロ雑巾”のように使い込んでいくために、

“憲法を深く知る”活動を行ってきました。

1年間の活動は、次の通りです。

2007年10月20日(土) <スタート集會>

「働けど 働けどワーキングプア」

対談：雨宮処凛さん 作家 × 森川文人さん(弁護士)

2008年4月12日(土)

「現代の貧困と憲法25条」

講師：湯浅 誠さん

(「NPO法人自立生活サポートセンター・もやい」事務局長)

「憲法ひろば・杉並」

連絡先： 090-2308-7030(椋原)  
090-1859-6656(東本)  
http://kenpohiroba.web.fc2.com

## シンポジウム参加者紹介

### 鈴木邦男さん(一水会顧問)

学生時代から右翼・民族運動に飛び込み1972年に「一水会」を創設。新右翼の代表的存在。1999年「一水会」代表辞任し顧問になる。著書・「新右翼」(彩流社)「言論統制列島」(共著・講談社)など多数。

### 伊藤 真さん(法学館館長)

法律資格・公務員・弁護士・法科大学院の伊藤塾塾長。受験指導の傍ら憲法の理念を広めるため全国で講演を展開。著書・「伊藤真の入門シリーズ」(日本評論社)、「憲法のことがおもしろいほどわかる本」(中経出版)など多数。

### コーディネーター：古山葉子さん

(元ピースポート・九条世界会議で通訳として活躍)

